

令和元年度 第1回 大牟田市健康福祉推進会議 摘録

開催日時：令和元年12月9日（月）14:00～16:00

会 場：大牟田市役所 北別館4階 第1会議室

出席委員：堺委員、藤原委員、村山委員、鴨打委員、松尾委員、西坂委員、森田委員、大迫委員、阿津坂委員、大場委員、古賀委員、井田委員、安藤委員、梅野委員、三浦委員、猿渡委員、小堺委員、奥菌委員、吉開委員、嶋田委員、跡部委員、徳永委員、高巢委員、富山委員

欠席委員：平山委員

事務局：保健福祉部長 岩成、福祉課長 橋本、福祉課総合相談担当課長 松枝、福祉課障害福祉担当課長 松藤、福祉課介護保険担当課長 吉澤、福祉課主幹 坂口、福祉課主査 梅本、福祉課 高守
大牟田未来共創センター理事 原口

概 要：以下のとおり

1. 委嘱状交付

…委員に対し、委嘱状を交付した。

2. 副市長あいさつ

…副市長より挨拶を行った。

3. 委員紹介

…事務局より委員25名の紹介を行った。

4. 会 議

(1) 会長及び副会長選出

…立候補及び推薦はなかったため、事務局案として「会長：村山委員、副会長：松尾委員」を提案し、承認された。

(2) 大牟田市健康福祉総合計画について

…会議資料「大牟田市健康福祉総合計画について」及び「大牟田市健康福祉総合計画 検討用資料」に基づき、事務局より説明を行った。

※（2）終了後、下記のとおり質疑応答・意見交換が行われた。

＜質疑応答・意見交換＞

○議長

事務局の説明に対して質問はないか。

○委員

本計画における子ども・子育て支援事業計画の位置付けはどうか。

○事務局

子ども・子育て支援事業計画は、令和2年度から5年間の計画として策定する予定。各委員にヒアリングする中でも、子どもに関する視点は重要であることは認識しているため、子ども・子育ての支援のあり方については、どのように本計画に盛り込めるか担当部署と調整しながら検討していきたい。

○委員

子ども・子育てに関する話題が出たときに、本会議で議論できるのか。

○事務局

子ども・子育て支援事業計画については、別の委員会で議論しているところ。要素としては本計画にも盛り込んでいきたいと考えているが、どのように掲載するかは調整が必要であると考えている。

本会議で議論していただくことは可能で、その内容は担当部署にも伝えていく。

○委員

本計画で、大牟田版の「ゆりかごから墓場まで」を考えていくのであれば、生まれたときから1人の市民として考える必要がある。本会議においても、子ども・子育てについての意見を言うことは可能か。

○事務局

総合的に福祉施策を考える上では子ども・子育ての部分は避けて通れないため、ぜひご意見をいただきたい。

○委員

本計画に子ども・子育て支援事業計画を盛り込むのではなく、次回会議で大牟田市の「子ども・子育て支援事業計画」を各委員に配布してはどうか。

○事務局

次回の会議で配布したい。

○議長

論点1「これからの社会の変化に対応するために課題となることは何か」について、意見をいただきたい。

○委員

支援を必要としている人が多様化していると感じる。特に制度の狭間に落ちてしまっている「中高年のひきこもり」の方々に対する支援を手厚くしてほしい。現在は親の支援で生活ができていたとしても、20~30年後の親亡き後にどのように生活していくのか。現在はどの制度にも引っかけられない人たちだと思うので、支援のあり方について課題にする必要があるのではないか。

○委員

ひきこもりの人の中には、子どもの頃から不登校であったり、以前はなかった学習障害やADHD等の診断を受けている人もいるため、教育や医療の分野からひきこもりのの方々に対するアプローチが重要ではないか。

○委員

大牟田市の小・中学校で取り組んでいるESDによる学びは、子どもたちがSDG

sを達成するための担い手として育ていけるようにするものである。子どもたちは、自らの力で問題解決に向かって提案し取り組む力を持っており、これからの大牟田市を支える大きな存在である。ビジョンに示されている「一人ひとりの市民」に子どもたちも含まれていることを踏まえていただきたい。

また、大人も子どもも自分が生き抜くために必要なことを見つけると同時に、一緒に生き抜くために、情報アクセスや相談支援に加え、自分ができることや与えられることを見つけるチャンスやきっかけ、仕組みづくりが課題になってくると思う。

○委員

企業において人手不足、後継者不足が課題。高校卒業後、市外・県外に出ていき、親だけが市に残る状況がある。最近、介護のために市に戻ってくるに当たり、就職先等の相談を受けることが増えている。また、職場内でも介護による離職があった。今後、市内の企業でも介護離職の増加が予想されるため、社員と密にコミュニケーションをとり安心して相談できる環境づくりや時短勤務など、企業の体制づくりが重要になると考える。

○委員

地域の社会福祉協議会でも、高齢者や若者のひきこもりの相談を受けている。8050問題と言われるが、日頃から家庭訪問をする中で、そこまで深刻に考えていない場合も多い。地域の中で、住民が孤独にならないようにサロンを作っているが、どのように実施していけばよいか悩んでいる。地域で取り組む場合、何をすることもお金がかかるが、地域にはお金がない。地域が取り組むときに、行政が後押しをしてくれる仕組みがあればよい。

○委員

介護離職の話が出たが、都会に出た子どもが親を呼び寄せる場合もあり、今後予想以上に人口減少が進むおそれがあり、介護サービスに与える影響もあるのではないかと。

薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）が改正され、過疎地等でテレビ電話による遠隔の服薬指導が認められるようになった。医療の現場は対面が基本だが、今後はIT、IoTの進化とともに、これまでと違ったコミュニケーションを考える必要が出てきている。今後、地域におけるコミュニケーションにおいても、機器等の発達を踏まえた議論をする必要があるのではないかと。

○委員

農福連携が注目されているが、実際に農業に求めるものは何か教えていただきたい。

○議長

事務局で情報をまとめて、後日共有してほしい。

○委員

8050問題では、親がひきこもりの子どもがいることを隠すことがあり、直接本人にアプローチできず苦慮しているため、どのようにアウトリーチができるのかが課題になる。

また、権利擁護の観点から、単身世帯や高齢者、生活困窮者、認知症の人が増えていく中で、本人が地域で自分らしく生活し、死んだ後も含めきちんと整理ができるように、公的に保障できる仕組みが必要ではないかと。

○委員

商店街の空き店舗の活用、賑わいづくりに取り組んでいる中で、市役所の各部署から相談を受けることがあるが、行政内でもっと連携することができるのではないかと感じる。この会議の場に、行政内の様々な部署が参加することで、計画以外にもヒントになることがあるのではないかと。

○委員

学校評議員になった時に、朝食を食べていない子どもが多いことに驚いた。食事が健康に与える影響は大きいと考えており、心配している。子育てをしている母親が深刻に考えていないのではないかと。ひきこもりの問題にも食事が影響しているのではないかと。

○委員

毎食きちんと食べている家庭が減っている。背景には外食産業の発達、調理済み食品の普及、健康志向食品の多様化等がある。バランスのとれた食事、減塩法など、正しい知識をもって栄養の教育をしてほしいと思っている。

みんなの健康展の栄養ブースを担当する中で、参加人数は変わらないものの男性より女性が多く、50歳以上の方が半数を占め、若い人の参加が減っている状況。

健康に関心の高い方は多いが、実行が伴っていない現状がある。単身高齢者もヘルパーに頼らざるを得ず、栄養に十分配慮できていないこともある。地域の中にも食事の管理を必要としている人がいても、どうしてよいかわからない人が多いようだ。本人、家族の意向がある中で、介入が難しい場合もある。管理栄養士が在宅介護に介入する場合に、管理栄養士の不足も課題となっている。

○委員

スクールソーシャルワーカーという立場で、支援が必要な家庭に訪問することがあるが、ひとり親家庭で親がダブルワーク、トリプルワークをしている中で、親として食事をさせないといけないことはわかっていてもうまくいかない現状がある。母親に対する期待はあると思うが、貧困の問題もあるため、母親に任せるだけでなく、どのように支援していくのかを考えないと難しくなっている。

○議長

論点2「「コンセプト案（P32）」、「ビジョン素案（P35）」、「実現に向けて必要だと考えられる方向性案（P36）」の内容は適切か」についてご意見はないか。

○委員

P35の中で、「制度の客体ではない」という文言を入れる必要があるのか。当事者は主体として生活している中で、上から目線のように感じる。

障害者問題は、生まれてから亡くなるまでのライフコースの視点が重要である。介護の問題も、高齢になり障害が出て介護が必要になるという意味では障害者問題と言える。

大牟田市では障害者手帳所持者と自立支援医療の受給者数を合わせると13,000人を超え、人口の約1割に相当する。各種計画を統合することについて、これまでマイナーな存在であった障害福祉が埋もれてしまうのではないかと心配していた。

ひきこもりや不登校の問題の背景にも学習障害や発達障害、うつ病など精神的な病気がある。また、家族に精神的な病気があることで不登校になっている場合もある。

社会的包摂やコンセプト、ビジョンなど全体的な方向性はよいと思うが、障害者差別解消法が施行されても、合理的配慮や障害特性の理解が進んでいない中で、どこまで実現できるのか。神奈川県はやまゆり園の事件も福祉に関係していない人の中では、風化している現状もある。コンセプトやビジョンを実現していくにはほど遠い状況を踏まえ、計画を策定する必要がある。

あらゆることが相談できる機能については、どのようなことを想定しているのか。あらゆる相談を受けるためにはいろいろな知識が必要。ワンストップの怖さもある。

○委員

行政の中での他の部署との連携について、コンセプトやビジョン、方向性の中に位置付けたほうがよいのではないか。

○事務局

方向性案の（１）（２）の中で位置付けを明確するように検討する。

○委員

学校では、子どもたちが自分の存在価値を見出し、学校に居場所ができるように自尊感情を大事にしていきたいと考えて教育している。これを社会の中に置き換えるとすれば、一人ひとりが存在価値を持ち、自尊感情を高めていけるようなビジョンになるとよい。

○委員

本人が主役になるという意味でよいビジョンだと感じた。現在、大牟田日本フィルの会の運営をサポートしているが、P33のコンセプト図に照らし合わせると、本人の周りにまず地域や社会、例えば文化・芸術があり、その上で本人がやりたいことを続けられるように、安心して暮らせる制度があるのではないか。

○事務局

P33の図は、障害をベースに作成している。高齢期に起こる問題は、これまで障害分野において問うてきたものだとして理解している。

図の見方としては、本人と緑色の地域・社会にあたる部分が実際に存在しているもので、制度等を本人の周りに位置付けている。制度等は人によっても大丈夫なものだが、調子が悪くなったときに制度が補うことで本人と地域・社会がつながり続けることができる。図において、人が制度に囲まれており、つながりより制度が重要だと見えるのであれば、図のあり方や説明の仕方を考える必要がある。

○議長

図の説明については必要ではないか。コンセプトとビジョン、方向性の関係性はいかがか。

○事務局

コンセプトについては「人をどう見るのか」、「普遍性がある人の捉え方」という基本的な考え方を示したもの。ビジョンについては目指すべきこと。方向性は政策を組み上げていくときに、何を重視するかという観点で書き分けている。

○委員

各委員から本人だけでなく、家族にもアプローチする必要性について意見が出ていたことから、方向性に本人とともに家族や世帯にアプローチすることを記載してはどうか。

○事務局

本人とともに世帯にアプローチしていくことは重要と考えるため、方向性の記載については検討していきたい。

P33の図においては、家族自身も「人生の主人公」であり、「主体として個人」である捉え方をしており、コンセプトと支援のあり方を分けて考えている。

○委員

農業の生産者としては、安心・安全な食品を家庭に届け、健康面から推進していきたいと考えている。長年取り組んでいる親子料理教室では、自分で作る、新鮮な物を食べることの重要性を伝えている。「生きる」ことは「食べる」ことだと思って活動しており、今後お役に立てることもあると思う。

○議長

この会議は、一見別の分野だと思えることでもつなげて考え、議論していくことが重要だと考える。

○委員

P36の「コーディネート機能の強化」とは何か。

○事務局

プラットフォームを構築するためには、調整機能や様々な主体が参加できる場を作り上げる力が重要である。場を作り上げる力は行政職員には弱いと考えており、これから行政職員の役割や意識を変えていく必要があると考えている。

また、これから行政は人員が減り、財源がない状況を迎える。その中で、地域にお願いする場面も出てくると考えるが、地域においても高齢化していたり、お金がないという状況があるため、お金の使い方を考えたり、地域で何か始めたいという若い人を応援したりする、これまで取り組めてこなかったコーディネート機能を果たしていくという意味で盛り込んでいる。

○委員

場を作るのは「地域」である。P35に示されている「地域」はわかるが、「社会」が漠然としていて捉えにくい。

公民館組織の加入率を上げるためにまちづくり協議会として交付金を受け取り活動しているが、加入率が上がっていない。お金の使い方やコミュニティ活動も一緒に取り組んでいけるとよい。

○議長

地域コミュニティに様々な分野からアプローチがあるが、整合性がなくバラバラに入っている現状もみられるため、本計画において整理していく必要がある。

○委員

一億総活躍プランにある「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、「地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる」ということを目指すと考えるが、コンセプト案(2)の「参加できる様々な機会」を創出する

という部分に表されていると理解してよいか。

○事務局

コンセプト案（２）で表しているとともに、コンセプト案（１）においても、地域や社会への参加を促進するための社会のありようを考えるとという視点で、盛り込んでいるつもり。わかりにくいのであれば、図のあり方を検討していきたい。

○委員

国際生活機能分類において、「参加」とは「生活・人生場面への関わり」「役割を持つこと」という定義されているため、そのことも踏まえて考えていただきたい。

○議長

コンセプト、ビジョン、方向性について、いくつかの視点や今後進めていく上での注意事項などについてご意見をいただいたが、大筋では合意していただいた。今後、コンセプト等については、共通理解が図れるように今後も議論していく必要がある。

○委員

ニーズ調査について、18歳以上に限定している意味は何か。計画や政策に興味をもってもらうという観点からも、子どもたちにもアンケートをとることは重要だと考える。

○事務局

教育委員会とも協議しながら、検討していきたい。

○議長

本会議だけで議論を尽くせない部分については、関係団体ヒアリング等において各委員が関わる場合は、その時にでも意見を述べていただきたい。

5. その他

…大牟田市介護支援専門員連絡協議会より20周年記念事業の案内を行った。

事務局より事務連絡を行った。

（以上）